

平成22年11月8日
第22回SALA 研修会【事例報告】

地域共同リポジトリSUCRA～参加までとこれからと～

埼玉女子短期大学図書館
湊 伸子

埼玉女子短期大学概要

- 1989年 狭山市上広瀬に開学
商学科150名 英語科150名
- 1995年 セメスター制導入
- 1996年 6か月留学スタート
- 1997年 コース制導入※
- 1999年 日高市に移転
インターンシップ(3週間)の導入
- 2001年 英語科を国際コミュニケーション学科に名称変更
インターンシップ(3か月)スタート※
- 2004年 「キャリア短大宣言:インターンシップとキャリア短大構
想」で現代GP採択

各学科のコース



商学科

- ファッション・トレンドコース
- ブランド・マーケティングコース
- 医療事務会計コース
- 会計事務
- コンピュータコース

国際コミュニケーション学科

- 観光・ホテルコース
- ブライダル・コーディネートコース
- エアライン・ホスピタリティコース
- 海外インターンシップ・留学コース

両学科共通コース

- ビューティー・キャリアコース
- 健康と心理コース
- スポーツ・パフォーマンスコース

図書館の概要



- 教室棟2階 床面積504.95m²
- 蔵書数約51000冊
- 受入雑誌数 53誌
- 座席数72席
- 視聴覚 8ブース
- 学内ネットワーク接続PC10台
- 専任教員21名 非常勤教員 名 職員20名
- 図書館職員 2名(司書1名 総務兼務1名)

リポジトリ以前(1)



- 平成15年秋 NIIの電子化事業への参加が決定
- 平成15年12月～16年3月に執筆者へ著作権の許諾
「研究紀要公開のための著作権処理の手引」
<http://www.nii.ac.jp/nels/archive/pdf/copyright.pdf>

著作権の集中(紀要投稿規程の改定)はせず、
退職教員を含め執筆者全員に許諾依頼書を送付し、
返信のあった教員の論文のみを電子化することにした。

リポジトリ以前(2)

- 平成17年1月 電子化対象冊子送付⇒データ受領
・創刊号～第10号まで
- 受け取ったデータを順次入力
- 以後は紀要発行時にPDFデータも納品
- 新規の著者にはその都度Ci-Nii掲載の許可を得た

リポジトリ参加の経緯(1)



□ SALAからのお誘いに・・・

- ① 当時文部科学省出身の教員が図書館長
- ② 文部科学省が推奨するリポジトリの意義を理解
- ③ 埼玉大学が中心となって進める「SUCRA」の事業に信頼
- ④ コストがかからない
- ④ 参加することは短期大学教員の意識を高めるとともに、短期大学の今後の運営の上からも意義が大きい

参加に積極的で、関係委員会をその方向で集約

リポジトリ参加の経緯(2)

- 学内の幹部会(教授会以前)では・・・
「短大がなぜそこまでするのか」
「参加しても大丈夫か」等の雰囲気
- IT・メディア委員会委員長と図書館長が積極的に参加の意義を説明し教授会にかけることの了解を得た。

リポジトリ参加の経緯(3)

- 教員の研究成果を外部に公表することに抵抗感
- 「SUCRAへの参加の意義」を強調
- 「紀要は既にCiNiiに登録していること」
- 「個々の教員に自分の研究成果の公表の是非のアンケートを取り、それに従って処理する」と説明



参加の決定

- 投稿規程の改定⇒理事会の承認

SUCRA登録まで(1)



(1)NIIへのCi-Nii掲載論文の提供を依頼

□「学術雑誌公開支援事業」

<http://www.nii.ac.jp/nels/about/contents.html>

(2)実際の登録方法は・・・

2009年10月埼玉県地域共同リポジトリ実務研修会

「村田輝 SUCRAの概要:登録実務を中心に」

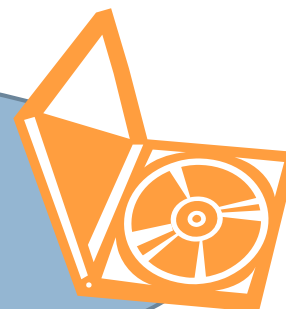
<http://sucra.saitama->

[u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=P0000169](http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=P0000169)

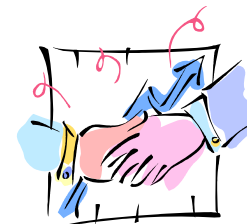


SUCRA登録まで(2)

NIIが抽出してくれたPDFデータ
を持って埼玉大学図書館へ



- 手取り足とり入力を支援
めでたく一括登録を終了
- 現在は、新規分を自館で入力



参加後のようす



- ・平成21年の紀要には全員が投稿。
「SUCRA」でダウンロードされていることを実感。
- ②リポジトリ参加大学のダウンロードランキングに、埼玉女子短期大学もランクイン。
教員の士気高揚につながった。
- ③法人役員にも報告し、短期大学も努力をしていることを説明できた。
- ④本年9月の短期大学基準協会の第三者評価で「SUCRAへの参加」を説明し、学術研究面でも努力していることを説明できた。

□ 参加して良かったこと

- ・コストなしでリポジトリに参加できた
- ・SALAの連帯感
- ・研究成果の可視性向上

□ 課題

- ・掲載済みデータの記述統一
- ・紀要以外の研究成果を継続的に掲載すること
- ・いつまでサポートに甘えていてはいけない！？